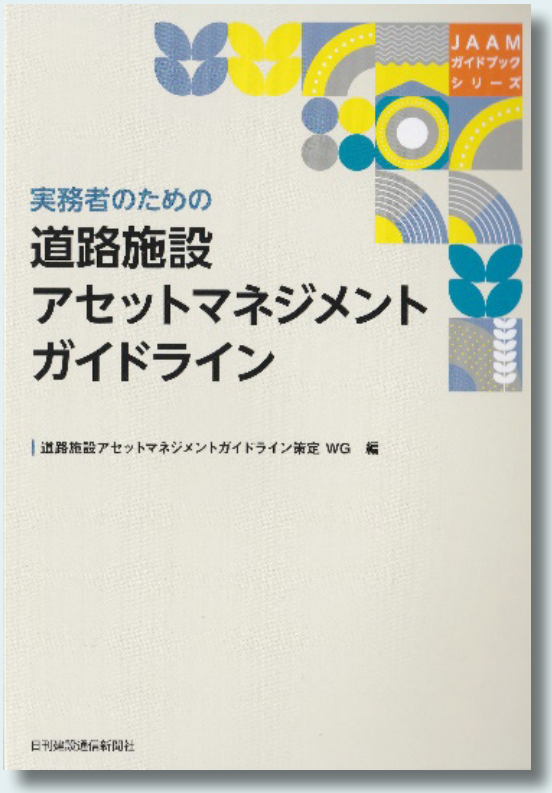
JAAM ガイドブックシリーズ「実務者のための道路施設アセットマネジメントガイドライン」（2023 年 11 月 15 日）の発行について



アセットマネジメントに関するISOマネジメントシステムであるISO 55000シリーズが国際標準化（2014年制定）されてから10年が経過した。わが国でも、橋梁、トンネル、舗装などの道路施設を対象としてISO 55001の認証取得する組織が増え、同システムを活かした優良事例などもJAAM研究実践発表会（https://www.ja-am.or.jp/action/research_publication.html）などで報告されている。

ISO 55001は道路、建物、プラントなどの物的アセット、情報、金融などの非物的アセットなどあらゆるアセットに適用できるように規格要求事項が規定されている。しかし、実際に、組織がアセットマネジメントシステムを構築しようとすると、アセットの種別によって、その構築の仕方、留意点などに差異がある。

そうしたことから、JAAMでは対象のアセットとして「道路施設」に焦点を当て、2023年11月15日に道路施設アセットマネジメントガイドラインを発行した。

国土交通省の「社会資本整備審議会」では、笹子トンネル事故から10年となる2022年12月に、特にインフラメンテナンスの課題が深刻化している市区町村に焦点をあてて、『総力戦で取り組むべき次世代の「地域インフラ群再生戦略マネジメント」～インフラメンテナンス第2フェーズへ～』を提言した。この提言の中でも、「多くのインフラを維持管理する地方公共団体のうち、特に小規模な市区町村では、措置すべき施設数に対し人員や予算が不足しており、予防保全への転換がまだ不十分であることなどが指摘されている。多くの市区町村の技術力の現状を踏まえると、一定の技術力が必要な点検や修繕等の業務をマネジメントすることには限界があることから、一層の民間活力の活用が必要となる。

本書は多くの自治体での道路分野でのアセットマネジメントに関する取り組み事例も盛り込みながら、建設時のデータや情報、その後の維持管理履歴や点検データなどから将来の劣化を予測し、次世代の負担となるライフサイクルコストを極力抑え、安全なインフラを利用者に提供するための方法などを、アセットマネジメントの国際規格（ISO 55000シリーズ）の要求事項に対応して解説している。

道路施設以外のアセットを対象とする場合でも、本書のアプローチは参考となるところが多い。老朽化が進みつつあるアセットへの対処、また、時代の要請に応えてアセットから新たな価値を引き出そうとしているインフラ管理者等のアセットオーナーや、アセットオーナーにサービスを提供しようとしている組織などの活動の一助となることを期待している。

なお、本書の目次は、以下の通りである。

1章　はじめに
2章　アセットマネジメントの解説
3章　道路施設のアセットマネジメントシステム構築に向けての留意点
4章　道路施設のアセットマネジメントシステム構築

購入など本書に関することについては、当協会（JAAM）へお問い合わせください。（toiawase@ja-am.or.jp）